

vol.2 ライオン ファンクス

聞き手 / 武藤泰明



「ゲーム観戦は社員、部員の家族、友人など、本社地区在住の人たちがほとんど。1シーズンに1ゲームは社長の演も観戦に来ます。ここ数年はファン拡大を狙ってSNSを活用したり、OBを中心に活動についてメール発信したり、春と秋にオープン戦と公式戦の日程が決定した際には必ずポスターをつくって社内に掲示しています。公式戦が始まる前の週にはオフィスの1階でピラを配るなどもしているのので、応援に来てくれる人が増えてきました」。(関屋)
<http://www.lion.co.jp/ja/company/sports/rugby/>



関屋建輔 監督
関東ラグビーフットボール協会
ジャパンラグビートップイーストリーグ Div.2
せきや・けんすけ / ファンクス所属 27年。
ラグビー歴は東京 RS、國學院久我山、中央
大学。2010年よりファンクス監督を務める。

連

載第2回は、ライオンのラグビー部「ファンクス」の関屋監督に話を伺った。

武藤 まず、チーム構成について教えてください。

関屋 37名のプレイヤーが所属しており、そのうち24名が社員、それ以外は他の企業に勤務しています。

武藤 活動拠点はどこですか。

関屋 工場がある市原です。工場敷地内にグラウンドがあるので、そこで活動しています。

武藤 普段の練習も市原のグラウンドで？

関屋 平日は本社ビル（墨田区

本所）の専用トレーニングルームで週1回集合しています。もちろん業務の関係で全員というのは無理ですが、社外の選手は部が契約している全国のスポーツクラブで個別にトレーニングをしています。週末は市原のグラウンドで全体のトレーニングを行います。

武藤 社員24名の方も関屋監督もデスクは東京オフィス（墨田区横網）にあるのですか。

関屋 はい。現役プレイヤー全員が営業部なので、営業部がある東京オフィスにいます。

武藤 監督の上に部長がいるのですか。

関屋 部長が1人と運営委員が4人います。全員ラグビー部のOBです。

武藤 部員の皆さんは、どうやって集まってきたのですか。

関屋 大きく分けて2つあります。1つは、採用窓口から各大学のスタッフに対してリクルートする方法です。もう1つは、

今いるメンバーを通して勧誘し、入部してもらう方法です。

武藤 大学のスポーツ推薦の場合は実力優先ですが、社員を採用する場合はそういうことはなかなかしづらいのですか。

関屋 そうですね。私たちは引退しても即戦力としてそのまま一般の社員と同等以上の仕事をすることを期待されています。

武藤 業界にもよりますが、一般社会においては新規大卒者が3年で3割辞めるというデータがあります。ラグビーをしたいと思ってライオンに入社した社員の離職はありますか。

関屋 ラグビーだけでなく、仕事でもしつかりと納得できる結果を出したいと考えている学生が志望してきてくれていますが、だから仕事の負荷も非常に高いのですが、ラグビーだけをするというのができないので辞めます、というような選手はいません。

武藤 地域活動はありますか。

関屋 年2回、ワンデーイベント

トを行っています。春の「ライオンラグビーフェスティバル」では地元ラグビースクールの生徒や親御さん、コーチをお呼びして、幼稚園から中学生まで年別にラグビーのレクチャーをします。また、弊社の商品や市原工場で何をつくっているのかを知っていただくPRイベントにもなっています。参加者は600名ほどです。

武藤 イベントを通じて接点が生まれるのは大事なことですね。しかし、ライオン製品とラグビーという種目の組み合わせは違和感がありそうに思います。

関屋 もともとラグビー部は、ラグビーを通じて人間の成長を図り、社にも貢献できる人材を育成しようという、教育的な理念で創部されました。ラグビー部によって製品をPRするというよりも、内部的な底上げを図っていきこうということです。また、頑張っている姿を見た社員たちの活性化も考えています。

Point of View

将来をイメージできる先輩部員がいる

今回の「収穫」ともいえるキーワードは「ロールモデル」。つまり、ラグビーをしたいと思って入社してくる社員には、自分の将来と重ねられるような先輩部員がいて、職業生活のイメージが持ちやすい。もちろんそれは「ラグビーのある生活」。だから、きっと世の中一般の新入社員と違って離職率が低いのでしょう。職場の雰囲気も良いはず。[「気は優しく力持ち」のいる職場をイメージしてみてください。]

(武藤)